

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 登録実用新案公報 (U)

(11) 実用新案登録番号

実用新案登録第3143753号
(U3143753)

(45) 発行日 平成20年8月7日 (2008.8.7)

(24) 登録日 平成20年7月16日 (2008.7.16)

(51) Int. Cl.

F 1

E O 4 H 3/10 (2006.01)

E O 4 H 3/10 Z

G 1 O K 15/04 (2006.01)

G 1 O K 15/04 3 O 2 D

評価書の請求 未請求 請求項の数 5 O L (全 12 頁)

(21) 出願番号 実願2008-879 (U2008-879)
(22) 出願日 平成20年2月19日 (2008.2.19)(73) 実用新案権者 505013675
株式会社コシダカ
群馬県前橋市新前橋町26-7 ヤマコビル
(74) 代理人 100064908
弁理士 志賀 正武
(74) 代理人 100108578
弁理士 高橋 詔男
(74) 代理人 100089037
弁理士 渡邊 隆
(74) 代理人 100094400
弁理士 鈴木 三義
(74) 代理人 100107836
弁理士 西 和哉

最終頁に続く

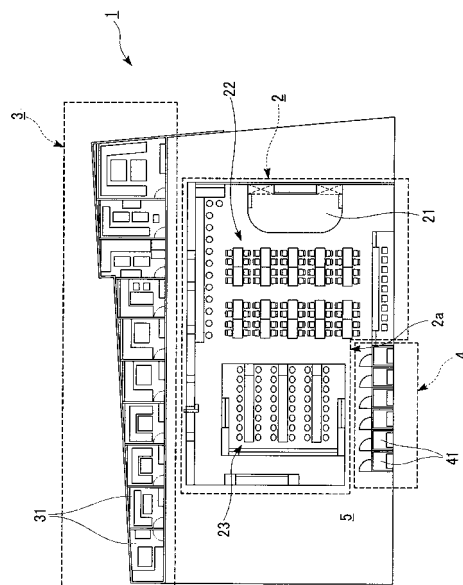
(54) 【考案の名称】 カラオケ施設

(57) 【要約】

【課題】利用者の人数やニーズに合わせた最適なカラオケ空間を利用することができる。

【解決手段】カラオケ施設1は、ステージ21が設けられていて複数のグループが共有の空間で利用できるステージエリア2と、グループ毎に利用可能な個室31からなるカラオケボックスエリア3と、個人が利用できる一人カラオケボックスエリア4とを備え、ステージエリア2、カラオケボックスエリア3、及び一人カラオケボックスエリア4は、個人やグループが利用時間中においてそれぞれのエリア間を移動して利用できるようにした。

【選択図】図1



【実用新案登録請求の範囲】**【請求項 1】**

ステージが設けられていて、個人や複数のグループが共有の空間で利用できるステージエリアと、

グループ毎に利用可能な個室からなるカラオケボックスエリアと、

個人が利用できる一人カラオケボックスエリアと、

を備え、

前記ステージエリア、前記カラオケボックスエリア、及び前記一人カラオケボックスエリアは、個人やグループがその利用時間中においてそれぞれのエリア間を移動して利用できるように設定された空間であることを特徴とするカラオケ施設。

10

【請求項 2】

ステージが設けられていて、個人や複数のグループが共有の空間で利用できるステージエリアと、グループ毎に利用可能な個室からなるカラオケボックスエリアと、個人が利用できる一人カラオケボックスエリアとを備えたカラオケ施設を利用したカラオケ利用方法であって、

個人やグループがその利用時間中において、前記ステージエリア、前記カラオケボックスエリア、及び前記一人カラオケボックスエリアのそれぞれのエリア間を移動して利用できるようにしたことを特徴とするカラオケ利用方法。

【請求項 3】

前記ステージエリアは、利用者層に応じた時間帯が設定され、各時間帯に対応した演出が行われることを特徴とする請求項 2 に記載のカラオケ利用方法。

20

【請求項 4】

夜の時間帯の前記ステージエリアは、酒場として利用されることを特徴とする請求項 3 に記載のカラオケ利用方法。

【請求項 5】

昼の時間帯の前記ステージエリアは、喫茶として利用されることを特徴とする請求項 3 に記載のカラオケ利用方法。

【考案の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

30

本考案は、個人やグループが歌って楽しむカラオケ施設およびカラオケ利用方法に関する。

【背景技術】**【0002】**

従来のカラオケ施設は、照明設備や音響設備や映像設備などが備えられた空間（部屋）がたくさん設けられていて、それぞれの人数に応じた大きさの部屋でカラオケを楽しむことができるように構成されている。ところで、これまでのカラオケ施設では、個室の大きさによって利用者の人数が制限されるという欠点があったが、このような課題に対応できるようにしたものが、例えば特許文献 1 に提案されている。

【0003】

40

特許文献 1 は、複数のカラオケボックスにビデオカメラとモニターテレビを設置して、各ビデオカメラおよびモニターテレビをケーブルで接続し、他のカラオケボックスと同じ状況下でカラオケを楽しみたい場合には、ビデオカメラおよびモニターテレビを ON 状態とすることにより、選択した他のカラオケボックス内の映像や音声をモニターテレビに出力させる発明について開示したものである。

【特許文献 1】特開平 5 - 2 1 6 4 8 6 号公報

【考案の開示】**【考案が解決しようとする課題】****【0004】**

しかしながら、従来のカラオケ施設では、以下のような問題があった。

50

すなわち、カラオケ施設を利用する利用者のニーズとして、一般的な数人のグループで個室を利用する場合のほか、例えばパーティーや宴会など多人数となる場合や、個人（一人）でカラオケを利用する場合、或いは順番待ちをしている間を利用して一人で歌ったり、練習したい場合など様々である。ところが、従来のカラオケ施設では、利用者に対して空いている所定の広さの部屋を提供するといった対応に限られてしまい、上述したような顧客ニーズに合った部屋を提供することができるとは限らないことから、その点で改良の余地があった。

また、上述した特許文献 1 のカラオケボックスでは、同じグループの利用者が異なる部屋に分かれてしまうため、グループ全員が同じ空間で楽しめないといった欠点があった。

【 0 0 0 5 】

そこで、本考案は、このような従来の事情に鑑みて提案されたものであり、利用者の人数やニーズに合わせた最適なカラオケ空間を利用することができるカラオケ施設およびカラオケ利用方法を提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【 0 0 0 6 】

この目的を達成するために、本考案に係るカラオケ施設では、ステージが設けられていて、個人や複数のグループが共有の空間で利用できるステージエリアと、グループ毎に利用可能な個室からなるカラオケボックスエリアと、個人が利用できる一人カラオケボックスエリアとを備え、ステージエリア、カラオケボックスエリア、及び一人カラオケボックスエリアは、個人やグループがその利用時間中においてそれぞれのエリア間を移動して利用できるように設定された空間であることを特徴としている。

【 0 0 0 7 】

また、本考案に係るカラオケ利用方法では、ステージが設けられていて、個人や複数のグループが共有の空間で利用できるステージエリアと、グループ毎に利用可能な個室からなるカラオケボックスエリアと、個人が利用できる一人カラオケボックスエリアとを備えたカラオケ施設を利用したカラオケ利用方法であって、個人やグループがその利用時間中において、ステージエリア、カラオケボックスエリア、及び一人カラオケボックスエリアのそれぞれのエリア間を移動して利用できるようにしたことを特徴としている。

【 0 0 0 8 】

本考案では、利用者の人数やニーズに合わせてステージエリア、カラオケボックスエリア、一人カラオケボックスエリアの 3 つの異なる形態のエリアを選択してカラオケを楽しむことができる。そして、利用者は 3 つのエリア間を移動して利用することが可能であるので、利用時間中、様々な形態でカラオケを楽しむことができる。例えばステージエリアで宴会を楽しんでいる利用者は、順番待ちをしている間に一時的にステージエリアから出て、空いている一人カラオケボックスエリアの一人用個室やカラオケボックスエリアの個室を使用して、歌を練習することができる。

【 0 0 0 9 】

また、本考案に係るカラオケ利用方法では、ステージエリアは、利用者層に応じた時間帯が設定され、各時間帯に対応した演出が行われることが好ましい。

【 0 0 1 0 】

本考案では、時間帯によって異なる利用者層に合わせて、多人数が共有できるステージエリアの演出を変えることができる。例えば、主婦や学生などの利用者が多い昼や夕方の時間帯では、お茶や珈琲などを飲食しながら司会者の進行によりステージ上でカラオケを披露する時間を盛り込んだ演出を行うことができ、仕事帰りの会社員などの利用者が多い夜の時間帯では、居酒屋の雰囲気演出するとともに、利用者全員が合唱できる企画を盛り込むといった演出を行うことができる。

【 0 0 1 1 】

また、本考案に係るカラオケ利用方法では、夜の時間帯のステージエリアは、酒場として利用されることが好ましい。

【 0 0 1 2 】

10

20

30

40

50

本考案では、会社帰りの会社員などが多く集まる夜の時間帯において、居酒屋の雰囲気の中でステージ上でカラオケを楽しむ空間を実現することができる。

【0013】

また、本考案に係るカラオケ利用方法では、昼の時間帯のステージエリアは、喫茶として利用されることが好ましい。

【0014】

本考案では、主婦や学生などが多く集まる昼の時間帯において、喫茶としてお茶や珈琲等を飲食しながらステージ上でカラオケを楽しむ空間を実現することができる。

【考案の効果】

【0015】

以上のように、本考案に係るカラオケ施設およびカラオケ利用方法では、利用者の人数や多様化する利用者のニーズに合わせてステージエリア、カラオケボックスエリア、一人カラオケボックスエリアの3つの異なる形態のエリアを選択して最適なカラオケ空間を利用することができるうえ、各エリア間を移動して利用することができるので、利用時間中、様々な形態のカラオケを楽しむことができることから、顧客へのサービスの向上を図ることができる。

【考案を実施するための最良の形態】

【0016】

以下、本考案を適用したカラオケ施設およびカラオケ利用方法の実施の形態について、図1を参照して詳細に説明する。

図1は本考案を適用した実施の形態によるカラオケ施設を採用したカラオケ施設のレイアウトの一例を示す平面図である。

【0017】

本考案の実施の形態によるカラオケ施設1は、複数の異なる形態のカラオケエリア（後述するステージエリア2、カラオケボックスエリア3、一人カラオケボックスエリア4）を備え、個人やグループなどの利用者が歌って楽しめる施設である。

【0018】

すなわち、図1に示すように、カラオケ施設1は、ステージ21が設けられていて、個人や複数のグループが共有の空間で利用できるステージエリア2と、グループ毎に利用可能な個室31、31からなるカラオケボックスエリア3と、個人が利用できる一人カラオケボックスエリア4とを備えている。そして、ステージエリア2、カラオケボックスエリア3、及び一人カラオケボックスエリア4は、個人やグループがその利用時間中においてそれぞれのエリア2、3、4間を移動して利用できるように設定された空間となっている。

【0019】

なお、図1における各エリア2、3、4は、図中で二点鎖線で囲まれた範囲内に示されている。これら各エリア2、3、4には、それぞれカラオケ装置、照明設備、音響設備、映像設備などが備えられ、共通スペースとなる通路5によって移動可能となる配置となっている。

そして、本実施の形態では、一人カラオケボックスエリア4は、ステージエリア2の入口2a付近に配置されている。

【0020】

具体的にステージエリア2は、パーティーや宴会などを目的とした多人数（例えば150人程度）を収容することが可能なテーブル席22やカウンタ席23を備えた所定の広さを有している。そして、本実施の形態では、テーブル席22の正面にステージ21が配置されている。ステージ21には、大型モニタやマイクなどのカラオケ設備が設置され、ステージエリア2の左右両側など適宜な位置には、スピーカが配置されている。

なお、このステージエリア2は、上述したように大勢の前でカラオケを楽しむことができる空間であって、1つの団体で貸し切りにも可能であるし、或いは他のグループと一緒にカラオケを楽しむことができるスペースとなっている。

10

20

30

40

50

【 0 0 2 1 】

カラオケボックスエリア 3 の各個室 3 1 は、例えば 4 名～ 2 0 名程度を収容可能な大きさをなす空間であり、外部（通路 5 など）に通ずる扉が設けられ、内部にはテーブル、座席は勿論のこと、モニタ等のカラオケ装置一式が備えられている。

【 0 0 2 2 】

一人カラオケボックスエリア 4 は、例えば幅 1 . 5 m、奥行き 1 . 5 m 程度のスペースからなる一人用個室 4 1、4 1、... が複数個設けられている。本実施の形態では、例えば電話ボックスのように複数個の一人用個室 4 1、4 1、... が一列（図 1 では左右方向）に配列されている。

【 0 0 2 3 】

そして、上述したカラオケボックスエリア 3 の個室 3 1、3 1 どうしや、一人カラオケボックスエリア 4 の一人用個室 4 1、4 1 どうしは、遮音壁などによって完全に仕切られ、各部屋の内部の音が外部に一切洩れないような構造になっている。

【 0 0 2 4 】

次に、このようなカラオケ施設 1 の作用及びその利用方法について具体的に説明する。

本カラオケ施設 1 では、利用者の人数やニーズに合わせてステージエリア 2、カラオケボックスエリア 3、一人カラオケボックスエリア 4 の 3 つの異なる形態のエリア 2、3、4 を選択してカラオケを楽しむことができるようになっている。そして、利用者は 3 つのエリア 2、3、4 間を移動して利用することが可能であるので、利用時間中、様々な形態でカラオケを楽しむことができる。

【 0 0 2 5 】

つまり、例えばステージエリア 2 で宴会を楽しんでいる利用者は、一時的にステージエリア 2 から出て、空いている一人カラオケボックスエリア 4 の一人用個室 4 1 やカラオケボックスエリア 3 の個室 3 1 を使用することができる。そのため、例えばステージエリア 2 で順番待ちをしている利用者や、大勢の人の前で歌うのが苦手な利用者は、一人カラオケボックスエリア 4 において一人で歌ったり、練習したりすることができる。

【 0 0 2 6 】

また、多人数が共有できるステージエリア 2 では、利用者層に応じた時間帯が設定され、各時間帯に対応した演出を行うことができ、その利用者層に合った演出の中でカラオケを楽しむことが可能な空間を実現することができる。

例えば、主婦や学生などの利用者が多い昼や夕方の時間帯では、お茶や珈琲などを飲食しながら司会者の進行によりステージ 2 1 上でカラオケを披露する時間を盛り込んだ演出を行うことができ、仕事帰りの会社員などの利用者が多い夜の時間帯では、居酒屋の雰囲気演出するとともに、利用者全員が合唱できる企画を盛り込んで、コンサートホールのような臨場感を演出することができる。

【 0 0 2 7 】

上述した本実施の形態によるカラオケ施設およびカラオケ利用方法では、利用者の人数や多様化する利用者のニーズに合わせてステージエリア 2、カラオケボックスエリア 3、一人カラオケボックスエリア 4 の 3 つの異なる形態のエリアを選択して最適なカラオケ空間を利用することができるうえ、各エリア 2、3、4 間を移動して利用することができるので、利用時間中、様々な形態のカラオケを楽しむことができることから、顧客へのサービスの向上を図ることができる。

【 0 0 2 8 】

以上、本考案によるカラオケ施設およびカラオケ利用方法の実施の形態について説明したが、本考案は上記の実施の形態に限定されるものではなく、その趣旨を逸脱しない範囲で適宜変更可能である。

例えば、本実施の形態のカラオケ施設 1（図 1）のレイアウトは一例であって、ステージエリア 2、カラオケボックスエリア 3、一人カラオケボックスエリア 4 の配置、広さ、個室の数量などは任意に設定することができる。

【 0 0 2 9 】

また、本実施の形態では、ステージエリア 2 の使用方法の事例について説明しているが、これに限定されることはなく、一般的な利用方法、すなわち数人のグループに対してはその人数に合った広さを有するカラオケボックスエリア 3 の個室 3 1 を提供し、パーティーや宴会などを目的としたで多人数となる利用者に対してはステージ 2 1 を備えたステージエリア 2 を提供し、そして個人（一人）の利用者に対しては一人カラオケボックスエリア 4 の一人用個室 4 1 を提供することができる。

さらに、各エリア 2、3、4 の利用料金は、任意に設定できることは言うまでもない。例えば、ステージエリア 2 と一人カラオケボックスエリア 4 に対しては受付を済ませた利用者が自由に入出入り（利用）することができ、カラオケボックスエリア 3 に対しては別料金を払うことで利用できるように設定することができる。

10

【図面の簡単な説明】

【0030】

【図 1】本考案を適用した実施の形態によるカラオケ施設のレイアウトの一例を示す平面図である。

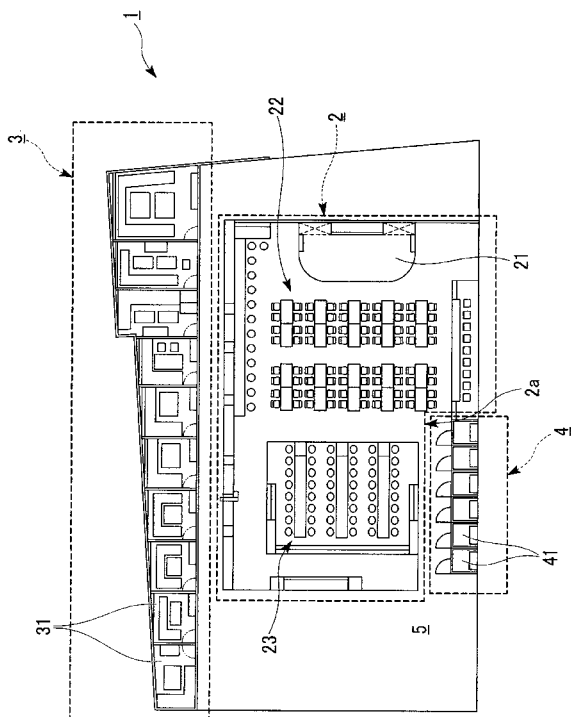
【符号の説明】

【0031】

- 1 カラオケ施設
- 2 ステージエリア
- 2 1 ステージ
- 3 カラオケボックスエリア
- 3 1 個室
- 4 一人カラオケボックスエリア
- 4 1 一人用個室

20

【図 1】



【手続補正書】

【提出日】平成20年5月19日(2008.5.19)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】実用新案登録請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【実用新案登録請求の範囲】

【請求項 1】

ステージが設けられていて、個人や複数のグループが共有の空間で利用できるステージエリアと、

グループ毎に利用可能な個室からなるカラオケボックスエリアと、

個人が利用できる一人カラオケボックスエリアと、

を備え、

前記ステージエリア、前記カラオケボックスエリア、及び前記一人カラオケボックスエリアは、個人やグループがその利用時間中においてそれぞれのエリア間を移動して利用できるように設定された空間であることを特徴とするカラオケ施設。

【請求項 2】

個人やグループがその利用時間中において、前記ステージエリア、前記カラオケボックスエリア、及び前記一人カラオケボックスエリアのそれぞれのエリア間を移動できることを特徴とする請求項 1 に記載のカラオケ施設。

【請求項 3】

前記ステージエリアは、利用者層に応じた時間帯が設定され、各時間帯に対応した演出が行われることを特徴とする請求項 2 に記載のカラオケ施設。

【請求項 4】

夜の時間帯の前記ステージエリアは、酒場として利用されることを特徴とする請求項 3 に記載のカラオケ施設。

【請求項 5】

昼の時間帯の前記ステージエリアは、喫茶として利用されることを特徴とする請求項 3 に記載のカラオケ施設。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【考案の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本考案は、個人やグループが歌って楽しむカラオケ施設に関する。

【背景技術】

【0002】

従来のカラオケ施設は、照明設備や音響設備や映像設備などが備えられた空間（部屋）がたくさん設けられていて、それぞれの人数に応じた大きさの部屋でカラオケを楽しむことができるように構成されている。ところで、これまでのカラオケ施設では、個室の大きさによって利用者の人数が制限されるという欠点があったが、このような課題に対応できるようにしたものが、例えば特許文献 1 に提案されている。

【0003】

特許文献 1 は、複数のカラオケボックスにビデオカメラとモニターテレビを設置して、各ビデオカメラおよびモニターテレビをケーブルで接続し、他のカラオケボックスと同じ状況下でカラオケを楽しみたい場合には、ビデオカメラおよびモニターテレビを ON 状

態とすることにより、選択した他のカラオケボックス内の映像や音声をモニターテレビに出力させる発明について開示したものである。

【特許文献1】特開平5-216486号公報

【考案の開示】

【考案が解決しようとする課題】

【0004】

しかしながら、従来のカラオケ施設では、以下のような問題があった。

すなわち、カラオケ施設を利用する利用者のニーズとして、一般的な数人のグループで個室を利用する場合のほか、例えばパーティーや宴会など多人数となる場合や、個人（一人）でカラオケを利用する場合、或いは順番待ちをしている間を利用して一人で歌ったり、練習したい場合など様々である。ところが、従来のカラオケ施設では、利用者に対して空いている所定の広さの部屋を提供するといった対応に限られてしまい、上述したような顧客ニーズに合った部屋を提供することができるとは限らないことから、その点で改良の余地があった。

また、上述した特許文献1のカラオケボックスでは、同じグループの利用者が異なる部屋に分かれてしまうため、グループ全員が同じ空間で楽しめないといった欠点があった。

【0005】

そこで、本考案は、このような従来の事情に鑑みて提案されたものであり、利用者の人数やニーズに合わせた最適なカラオケ空間を利用することができるカラオケ施設を提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【0006】

この目的を達成するために、本考案に係るカラオケ施設では、ステージが設けられていて、個人や複数のグループが共有の空間で利用できるステージエリアと、グループ毎に利用可能な個室からなるカラオケボックスエリアと、個人が利用できる一人カラオケボックスエリアとを備え、ステージエリア、カラオケボックスエリア、及び一人カラオケボックスエリアは、個人やグループがその利用時間中においてそれぞれのエリア間を移動して利用できるように設定された空間であることを特徴としている。

【0007】

また、本考案に係るカラオケ施設では、個人やグループがその利用時間中において、ステージエリア、カラオケボックスエリア、及び一人カラオケボックスエリアのそれぞれのエリア間を移動できることが好ましい。

【0008】

本考案では、利用者の人数やニーズに合わせてステージエリア、カラオケボックスエリア、一人カラオケボックスエリアの3つの異なる形態のエリアを選択してカラオケを楽しむことができる。そして、利用者は3つのエリア間を移動して利用することが可能であるので、利用時間中、様々な形態でカラオケを楽しむことができる。例えばステージエリアで宴会を楽しんでいる利用者は、順番待ちをしている間に一時的にステージエリアから出て、空いている一人カラオケボックスエリアの一人用個室やカラオケボックスエリアの個室を使用して、歌を練習することができる。

【0009】

また、本考案に係るカラオケ施設では、ステージエリアは、利用者層に応じた時間帯が設定され、各時間帯に対応した演出が行われることが好ましい。

【0010】

本考案では、時間帯によって異なる利用者層に合わせて、多人数が共有できるステージエリアの演出を変えることができる。例えば、主婦や学生などの利用者が多い昼や夕方の時間帯では、お茶や珈琲などを飲食しながら司会者の進行によりステージ上でカラオケを披露する時間を盛り込んだ演出を行うことができ、仕事帰りの会社員などの利用者が多い夜の時間帯では、居酒屋の雰囲気演出するとともに、利用者全員が合唱できる企画を盛り込むといった演出を行うことができる。

【 0 0 1 1 】

また、本考案に係るカラオケ施設では、夜の時間帯のステージエリアは、酒場として利用されることが好ましい。

【 0 0 1 2 】

本考案では、会社帰りの会社員などが多く集まる夜の時間帯において、居酒屋の雰囲気の中でステージ上でカラオケを楽しむ空間を実現することができる。

【 0 0 1 3 】

また、本考案に係るカラオケ施設では、昼の時間帯のステージエリアは、喫茶として利用されることが好ましい。

【 0 0 1 4 】

本考案では、主婦や学生などが多く集まる昼の時間帯において、喫茶としてお茶や珈琲等を飲食しながらステージ上でカラオケを楽しむ空間を実現することができる。

【 考案の効果 】

【 0 0 1 5 】

以上のように、本考案に係るカラオケ施設では、利用者の人数や多様化する利用者のニーズに合わせてステージエリア、カラオケボックスエリア、一人カラオケボックスエリアの3つの異なる形態のエリアを選択して最適なカラオケ空間を利用することができるうえ、各エリア間を移動して利用することができるので、利用時間中、様々な形態のカラオケを楽しむことができることから、顧客へのサービスの向上を図ることができる。

【 考案を実施するための最良の形態 】

【 0 0 1 6 】

以下、本考案を適用したカラオケ施設の実施の形態について、図1を参照して詳細に説明する。

図1は本考案を適用した実施の形態によるカラオケ施設を採用したカラオケ施設のレイアウトの一例を示す平面図である。

【 0 0 1 7 】

本考案の実施の形態によるカラオケ施設1は、複数の異なる形態のカラオケエリア（後述するステージエリア2、カラオケボックスエリア3、一人カラオケボックスエリア4）を備え、個人やグループなどの利用者が歌って楽しめる施設である。

【 0 0 1 8 】

すなわち、図1に示すように、カラオケ施設1は、ステージ21が設けられていて、個人や複数のグループが共有の空間で利用できるステージエリア2と、グループ毎に利用可能な個室31、31からなるカラオケボックスエリア3と、個人が利用できる一人カラオケボックスエリア4とを備えている。そして、ステージエリア2、カラオケボックスエリア3、及び一人カラオケボックスエリア4は、個人やグループがその利用時間中においてそれぞれのエリア2、3、4間を移動して利用できるように設定された空間となっている。

【 0 0 1 9 】

なお、図1における各エリア2、3、4は、図中で二点鎖線で囲まれた範囲内に示されている。これら各エリア2、3、4には、それぞれカラオケ装置、照明設備、音響設備、映像設備などが備えられ、共通スペースとなる通路5によって移動可能となる配置となっている。

そして、本実施の形態では、一人カラオケボックスエリア4は、ステージエリア2の入口2a付近に配置されている。

【 0 0 2 0 】

具体的にステージエリア2は、パーティーや宴会などを目的とした多人数（例えば150人程度）を収容することが可能なテーブル席22やカウンタ席23を備えた所定の広さを有している。そして、本実施の形態では、テーブル席22の正面にステージ21が配置されている。ステージ21には、大型モニターやマイクなどのカラオケ設備が設置され、ステージエリア2の左右両側など適宜な位置には、スピーカが配置されている。

なお、このステージエリア 2 は、上述したように大勢の前でカラオケを楽しむことができる空間であって、1つの団体で貸し切りにもすることも可能であるし、或いは他のグループと一緒にカラオケを楽しむことができるスペースとなっている。

【0021】

カラオケボックスエリア 3 の各個室 3 1 は、例えば 4 名～20 名程度を収容可能な大きさをなす空間であり、外部（通路 5 など）に通ずる扉が設けられ、内部にはテーブル、座席は勿論のこと、モニタ等のカラオケ装置一式が備えられている。

【0022】

一人カラオケボックスエリア 4 は、例えば幅 1.5 m、奥行き 1.5 m 程度のスペースからなる一人用個室 4 1、4 1、... が複数個設けられている。本実施の形態では、例えば電話ボックスのように複数個の一人用個室 4 1、4 1、... が一列（図 1 では左右方向）に配列されている。

【0023】

そして、上述したカラオケボックスエリア 3 の個室 3 1、3 1 どうしや、一人カラオケボックスエリア 4 の一人用個室 4 1、4 1 どうしは、遮音壁などによって完全に仕切られ、各部屋の内部の音が外部に一切洩れないような構造になっている。

【0024】

次に、このようなカラオケ施設 1 の作用及びその利用方法について具体的に説明する。

本カラオケ施設 1 では、利用者の人数やニーズに合わせてステージエリア 2、カラオケボックスエリア 3、一人カラオケボックスエリア 4 の 3 つの異なる形態のエリア 2、3、4 を選択してカラオケを楽しむことができるようになっている。そして、利用者は 3 つのエリア 2、3、4 間を移動して利用することが可能であるので、利用時間中、様々な形態でカラオケを楽しむことができる。

【0025】

つまり、例えばステージエリア 2 で宴会を楽しんでいる利用者は、一時的にステージエリア 2 から出て、空いている一人カラオケボックスエリア 4 の一人用個室 4 1 やカラオケボックスエリア 3 の個室 3 1 を使用することができる。そのため、例えばステージエリア 2 で順番待ちをしている利用者や、大勢の人の前で歌うのが苦手な利用者は、一人カラオケボックスエリア 4 において一人で歌ったり、練習したりすることができる。

【0026】

また、多人数が共有できるステージエリア 2 では、利用者層に応じた時間帯が設定され、各時間帯に対応した演出を行うことができ、その利用者層に合った演出の中でカラオケを楽しむことが可能な空間を実現することができる。

例えば、主婦や学生などの利用者が多い昼や夕方時間帯では、お茶や珈琲などを飲食しながら司会者の進行によりステージ 2 1 上でカラオケを披露する時間を盛り込んだ演出を行うことができ、仕事帰りの会社員などの利用者が多い夜の時間帯では、居酒屋の雰囲気を出るとともに、利用者全員が合唱できる企画を盛り込んで、コンサートホールのような臨場感を出すことができる。

【0027】

上述した本実施の形態によるカラオケ施設では、利用者の人数や多様化する利用者のニーズに合わせてステージエリア 2、カラオケボックスエリア 3、一人カラオケボックスエリア 4 の 3 つの異なる形態のエリアを選択して最適なカラオケ空間を利用することができるうえ、各エリア 2、3、4 間を移動して利用することができるので、利用時間中、様々な形態のカラオケを楽しむことができることから、顧客へのサービスの向上を図ることができる。

【0028】

以上、本考案によるカラオケ施設の実施の形態について説明したが、本考案は上記の実施の形態に限定されるものではなく、その趣旨を逸脱しない範囲で適宜変更可能である。

例えば、本実施の形態のカラオケ施設 1（図 1）のレイアウトは一例であって、ステージエリア 2、カラオケボックスエリア 3、一人カラオケボックスエリア 4 の配置、広さ、

個室の数量などは任意に設定することができる。

【 0 0 2 9 】

また、本実施の形態では、ステージエリア 2 の使用方法の事例について説明しているが、これに限定されることはなく、一般的な利用方法、すなわち数人のグループに対してはその人数に合った広さを有するカラオケボックスエリア 3 の個室 3 1 を提供し、パーティーや宴会などを目的としたで多人数となる利用者に対してはステージ 2 1 を備えたステージエリア 2 を提供し、そして個人（一人）の利用者に対しては一人カラオケボックスエリア 4 の一人用個室 4 1 を提供することができる。

さらに、各エリア 2、3、4 の利用料金は、任意に設定できることは言うまでもない。例えば、ステージエリア 2 と一人カラオケボックスエリア 4 に対しては受付を済ませた利用者が自由に出入り（利用）することができ、カラオケボックスエリア 3 に対しては別料金を払うことで利用できるように設定することができる。

【図面の簡単な説明】

【 0 0 3 0 】

【図 1】本考案を適用した実施の形態によるカラオケ施設のレイアウトの一例を示す平面図である。

【符号の説明】

【 0 0 3 1 】

- 1 カラオケ施設
- 2 ステージエリア
- 2 1 ステージ
- 3 カラオケボックスエリア
- 3 1 個室
- 4 一人カラオケボックスエリア
- 4 1 一人用個室

フロントページの続き

(74)代理人 100108453

弁理士 村山 靖彦

(72)考案者 腰高 博

群馬県前橋市新前橋町 2 6 番地 7 ヤマコビル 株式会社コシダカ内